

## 造園者の立場から

鴨 水

選りにも選つてチブスに思ひされ、1箇月振りに登壇してみたら「土木滿洲」が忙しく待つてゐた。

「ハハハ」何だ、と思つて開いて見たら、何となく好きになつた。之は「建設」より宜ひや、と直感してしまつたのである。滿洲土木學會なんて如何にも新鮮な、而も味のない組織系統を好ましく眺め、仲々オツカナイ代物と思つた事である夫うかうしてゐる裡に2、3號を載いたから、何うも可怪しいと睨んでゐたら何時の間にか入會させられてゐた。随分氣の利いた話である。

扱て入會させられたとなれば、之から精々愛讀して面子をたてる積りだが、一つ夫の手始めとして誌想模様を呈してみる。

私は之でも造園者の仲間入りをしてゐるのだが、何としても若くて才能に乏しく、本職に殉ぜんと言つた悲壯な覺悟が講母しくも持ち合せてゐるかと思ふと、金があつたら旅でもして呑氣に暮し度いな、と素寒貧な構想を持つて威張つてゐる。表裏一體性の女にとっては危険人物である。東京に居る間何時とはなしに旅道樂を覺えた私にしては尤もな事なので、事實造園界に没頭する様になつたのも旅道樂の賜物と言つて悪くない。別に自惚れる事ではないが、人間を熏陶するに生きた素材を遺憾なく提供するものは何と言つても旅である。

當時「土木」なんて考えてもゐなかつたが、造園の仕事に携はる様になつて、造園と土木の關係が密接に連繋してゐる事が分つて來た。學校に居た頃私達はよく論争したものだ。

果して造園とは土木部門の一分野である乎  
否土木こそ造園部門の一分野に過ぎない  
此處で一寸賢し度い事は土木と言ふ術語だ。土と木が一緒になつて始めて仕事が出来ののだが、氣にくわない  
う少し文明的な文句にならないかと思ふ。夫して餘り

に内容が複雑に出來て私達は背やかす事甚だしい。造園學とか造園設計を學んでゐると、之に附隨して都市計畫とか風景計畫、建築とか土木等が環圍の如く待機してゐるけれども、土木學とか土木施工法をやると造園の一端が行儀正しく待機してゐる。さすれば一體之は、何ちらを主とし何らを従とすれば宜ひか、となつて來る。随つて先述した様な眞剣な論争が行はれたのである。之は又獨り學徒のみでなく、林學と工學博士連中の間でも反目の状態にある。

之等を各單獨部門として取扱ふと如何なる結果を生ずるだらうか。夫れこそ私達は安んじておれない。造園設計から土木施工、土木設計施工から造園意匠と云つた極く手近な實狀を見ても、不可分の關係にある事が明瞭になつてくる。だから何らかを離けると、都市の成立は劣か道路の造成さへ出來ない事になる。私達に女性が居ない時を想像したら領づかれよう。夫うした關係性から最近兩者の關係が性格上からも折衷されなければならぬと言つた様な見解が發頭してゐる事を欣ぶ。例え私が造園者であつても敢えて土木屋を非難しようとは思はない下劣なものとも思はない。唯夫れに携はる人々の態度に時として甚だしく惡感を抱く事はあるが……

併しわざわざこうして分明すると互ひに優先を争ふが一括して「技術者」として呼ばれると満足してゐる。全く單純な反面を持つ人間だ之は心理學に徴してみなくては判断がつかない。

生活職線大いに異狀ある今日、土木及び造園技術關係圖書が頻繁に刊行されるに至つた事は欣しい。夫して科學する心がより多く浸透すれば、私達の日常にも今一步面白く反映するものがある。圖書が多く刊行されたかと云つて何が欣しいかと言へば、現今迄(夫れは何時の時代でも)技術部門は行政部門の一分野位にし考へら

れず一部の人々が此の弊害を打開しようとしたが實現しなかつた。夫云つた形成さへ見せなかつた。處が滿洲事變を契機として各種の建設が雨後の筍見度に興隆し始め、最早や行政のみでは十分なる國家經營を遂行するに不調となつて來た。殊に今次の歐洲戰亂に於て獨逸の實力ある技術陣を見ては、到底輕視能はざる事態に置かれた譯である。而して必然的に各技術分野は部門に躍進し、行政自尊者に堂々挑戦するに至つた。之が欣しくなければ、技術者仁義を辨えぬ唐變木だ。近時人的資源整備の一歩厳しい折柄、私達技術者がさして制約を受けないのも實に斯かる史的環境の多大なる事を感謝しなければならぬ。之即ち欣しき近因である。

處が此處に反省する事は、技術者は全體的に學理的研究とか慾望がない悲しさだ。私も夫の一人だが、之は確に行政人より行政的に稍々見劣りがする有力な動因と目され、一部の人々を除いては樂天家で暮らそうとある。併し私達は今こうした事から目覚める恰形な時機に際會してゐると思ふ。夫して出来るだけ時流を達觀し、文化的呼吸を多く深くやる事に留意すれば、人間として生命甲斐のある道中を送る事が出来るのではあるまいか。

話が餘り簡單明瞭?なので私自身夢中なんだが、土木にしる造園にしる、夫の性格には異なる處あるにせよ、結

果に於て近似値であると思ふ。唯夫の行ふ環境の相違依つて分解された位置にある事は否定出来ない。道型築造して舗装を完成し、立派な道路が建設された後は園の一部門が街路樹として、或は廣場、或は道路公園として更に道路の維持とか美化に拍車を加える。又反對造園意匠に依つて公園像定地の區劃が成された後、盛とか切土と云つた土木の一部門が緊密なる計算の下にはれる。まあ之等は私達の近邊に見られる状況だが、處に何等かの共通點があるのではないかと思はれるの人情として造園を土木の上に冠し度。併し夫れは至上の優越感であつて根據の薄いものだ。所謂術語の掛を、施工内容の相違で迷よふ。段別之に限らつた事でないが、兩者共夫々眞筋を持つてゐるから六箇敷い

土木屋に對して何だかおこがましい様だが、別段因縁を持つ譯ではない。私はもつと一貫した理論と結末を兩者に希望し、進んでを統合した新技術部門登場すれば、夫れこそ技術的效果がより多く齎らさるのではないかと思つたのである。目下一部の人々の話のある造園技術者の糾合團結は、實現すれば勿論のヒットである。だが之を根據して何等かの見透し與へられたら、尚ほ前進する餘裕が與へられたと言ひきだら。

## 會 務 報 告

### 第5回 常議員會記錄

日 時 康徳8年5月16日 午後2時

場 所 滿鐵新京支社、第3會舘

出席者 平山復二郎、坂田昌亮、本間德雄、町田義知

溝江五月、山内丈夫、風間武雄、佐藤九郎、

濱主事外3名

#### 協議事項

- 1 科學技術實體結成に關する件
- 2 常議員補充の件

前回(第4回)常議員會に於て研究問題として保留中の第一事項に就ては坂田副會長より協和會科學技術分會及

科學技術部會結成其後の進展狀況並動向開催された會、協會有志聯合懇談會模様等本運動の動向に關し報告あり引續き本會の態度決定に就き懇談に入る然3時間餘り忌憚なく意見の交換をなせるも結局具體度決定に至らず時間の都合上再度研究問題として保留することゝきり。

第二事項に關しては過般桑原利英、田邊利男、兩所變更に伴ふ常議員の解雇に依る兩氏の補充に就て立總會に於ける役員選任の際欠點者たる鈴木長明、喜一郎、兩氏以て補充する事に決定せり其他種々の後5時30分散會す。 以上

## 滿洲土木學會役員 (順序不同)

理事  
會長 佐藤應次郎  
副會長 平山復二郎  
同 坂田昌亮  
總務部長 西川總一  
調查部長 本間德雄  
經理部長 武藤吉次  
編輯部長 町田義知

常議員  
浦要治、風間武男、永井了吉、沼田征矢雄、  
鈴木長明、高橋誠一、加藤喜一郎、山内丈夫、  
佐藤九郎

編輯委員  
黑田重治、山内丈夫、原田干三、浮州 實、

橋本利一、高松信一、大崎虎次、兒玉實、  
龍野繁太郎、平野重哉、瀬戸政章、山野善次、  
深町新平、美安和夫、羽中田參次、瀬尾一久、  
安田晴彦、柴田道生

### 工事請負制度改善研究委員

委員長 平山復二郎  
西川總一、本間德雄、鈴木長明、重住文男、  
中島時雄、風間武雄、永井了吉、高橋誠一、  
黑田重治、伊知地綱彦、岩井寅藏、青木金作  
平野重哉、福塚清、笠原秀彦、高島、  
橋内德治、武富美春、長澤圭吾、清水三藏、  
高松信一、廣崎行雄、名須川秀三

康德8年5月25日印刷 康德8年6月1日發行〔非賣品〕

發行者	新京特別市惠民路第1代用官舎27號	黑田重治
編輯者	新京特別市崇智路政府聚合住宅11號	佐藤九郎
印刷者	新京中央通44番地	和木本久
印刷所	新京中央通44番地	滿洲新聞社印刷所

新京特別市順天大街 交通部道路司内

發行所 社團 滿洲土木學會  
法人

本店 奉天市大和區加茂町第十六號

支店 新京特別市大同大街三〇二號



株式會社

滿洲大林組

取締役社長

大林 義雄

常務取締役

高橋 誠一

出張所

大連、鞍山、牡丹江、哈爾濱、錦州、安東、吉林

工場

奉天、大連、牡丹江